

ISO/TC207 ソウル総会活動報告

1. 後藤委員による発表

● 発表委員会: SC4 (環境パフォーマンス評価) 全体会議

● 発表内容:

“The Trial Project of Environmental Information Disclosure System”

1. Introduction
2. Outcome from the project in FY 2015
3. On-going project in 2016



2. 各国エキスパートに対するヒアリング

● ヒアリング対象者: TC207総会参加エキスパート

● 主なヒアリング結果

- 新ISO14001の内容について、エキスパートからの著しい懸念はなかった。国内複数セクターへの調査の結果も、「厳しいながらも対応可能」との見方が多い。一般的な傾向として、大企業は新ISO14001に移行しつつあるが、中小企業は対応が遅れている。
- 欧州諸国の政府機関や地方自治体の支援のもと、専門コンサルティング企業等による、新旧14001のギャップ分析、業界単位でのワークショップ開催等の対応が行われている。また、独自の環境マネジメントシステム(例: スウェーデン: Environmental Diploma、ドイツ: Eco-Profitプログラム)の推奨・導入も進められている。
- 中小企業向けのEMSは、サプライチェーン単位での活動に基づくものが多いが、大型プログラムを政府主導でやっている国は、ヒアリングした限りでは見られなかった。中小企業向けでは、「例えばビジュアルに力を入れたシンプルなプログラムの必要性が高い。」との意見が確認された。